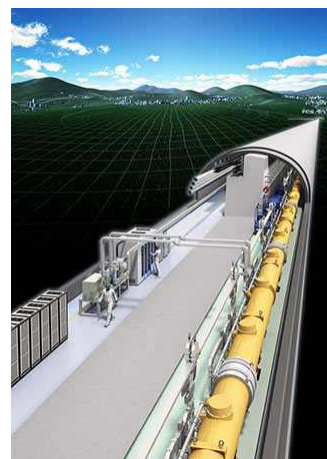


国際リニアコライダー（ILC）計画について

- 線形加速器（全長：約30km）により、電子と陽電子の衝突実験を行う計画。これにより、質量の起源とされる「ヒッグス粒子」の性質の解明や未知の粒子が発見され、宇宙創成の謎の解明につながると期待されている。



- 平成25年6月12日、国際的な素粒子物理学コミュニティによる技術的設計報告書が完成。本体施設とトンネルの建設費だけで少なくとも8,300億円が必要とされたところ。（このほか、人件費や運営経費などの経費が別途必要。）

- 我が国を含め各国とも政府レベルで誘致の意向を表明した国は無く、費用分担の割合も白紙状態。（平成25年5月27日、文部科学省は日本学术会议に対して、ILC計画に関する審議を依頼。）

- 国内では、北上山地（岩手県）及び背振山系（福岡県・佐賀県）の2カ所が建設候補地として名乗りを挙げ、地元自治体や産業界を巻き込んで誘致に積極的。

平成25年8月23日、高エネルギー物理分野の研究者が設立した作業部会「ILC立地評価会議」が、科学的・学術的観点から評価を実施し、北上山地を候補地に選んだと公表。



ILC立地評価会議が最適と評価

ILC推進に係る国際組織、国内組織について

国際組織

国際将来加速器委員会 (ICFA)

高エネルギー物理学研究に用いられる粒子加速器の建設運用に係る国際協力を促進するための組織



リニアコライダー国際推進委員会 (LCB)

LCCの監督組織。技術的設計報告書作成(6/12)
(委員長: 駒宮幸男)



リニアコライダーコラボレーション (LCC)

ILCの国際的な推進組織
(リーダー: リン・エバンス)

国内組織

高エネルギー物理学研究者会議 (JAHEP)

(委員長: 駒宮幸男※①)



高エネルギー委員会 (委員長: 駒宮幸男)



ILC戦略会議 (議長: 山下了※②)

推進の方向性、方策の検討。設置候補地の選定



ILC立地評価会議 (共同議長: 川越清以、山本均※③)

※①リニアコライダー国際推進委員会 (LCB) 委員長 駒宮幸男 (東京大学大学院理学系研究科教授)

②ILC戦略会議議長 山下了 (東京大学・素粒子物理国際研究センター・准教授)

③立地評価会議共同議長 山本均 (東北大学大学院理学研究科教授)

川越清以 (九州大学大学院 理学研究院教授・九州大学先端素粒子物理研究センター長)